

▼ジヒドロエルゴタミン [内] <販売中止>

【重要度】 【一般製剤名】 ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩 (U) dihydroergotamine mesilate 【分類】 起立性低血圧・血管性頭痛用剤

【単位】 ▼1mg/錠

【常用量】 3錠/日

【用法】 1日3回

【透析患者への投与方法】 減量の必要はないが、末梢虚血に注意 (5) 【その他の報告】 減量の必要なし (3) 透析中の低血圧に有効という報告あり、透析中に10 μ g/kg 体重を静注するとSBPが91から114に、DBPが60から78に上昇し、投与後15~30分で最大効果が発現し、生食注入量も減少した (Arzneimittelforschung 37: 554-556,1987)

【保存期 CKD患者への投与方法】 減量の必要なし (5) 【その他の報告】 データなし (17) 重度腎障害患者には禁忌 (FDA)

【特徴】 血管平滑筋に対し持続的な収縮作用を示す。 α -受容体に対して抗アドレナリン作用を現わす。本剤はその用量に応じて、容量血管 (静脈系) を収縮させ、緊張を高めるが抵抗血管 (動脈系) にはほとんど作用を示さない。しかし拡張した血管には明らかな収縮を示す

【主な副作用・毒性】 末梢虚血、嘔気・嘔吐など

【モニターすべき項目】 血圧、ECG、四肢末端の観察および脈拍の触診

【吸収】 8.9~60.3% (11)

【F】 初回通過効果によりほとんど消失する (11) 経鼻投与時32% (1)

【tmax】 2.7hr (1)

【代謝】 肝でのみ代謝され初回通過効果をうけやすい。8'-ヒドロキシジヒドロエルゴタミンは薬理活性がある (U)

【排泄】 尿中回収率2.7 \pm 0.4% [po, 72hrまで] (未変化体かどうか不明) (1) 主に糞便中排泄 (U) 経鼻投与されると尿中に未変化体として2%回収 (U)

【t1/2】 約10hr (U) α 相2hr, β 相21hr (1)

【蛋白結合率】 93% (U)

【Vd】 5.6~30.0L/kg (11)

【MW】 679.78

【透析性】 蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】 TDMの対象にならない 【O/W係数】 6.8 (11) 【pKa】 6.04 (1)

【相互作用】 HIVプロテアーゼ阻害剤、アゾール系抗真菌剤、テラプレビル、トリプタン、麦角アルカロイド等と併用禁忌 [CYP3A4を介するもの] (1)

【更新日】 20170408

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。